

VIII. 来場者の状況

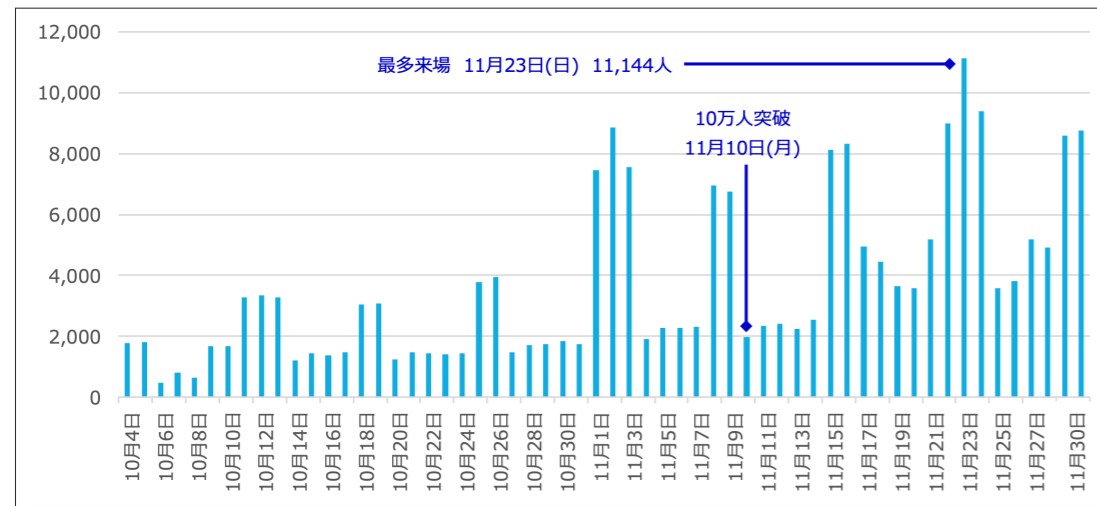
初開催となった『ひろしま国際建築祭 2025』は
58日間の会期で、延べ21万4,089人の来場があった。

来場者数

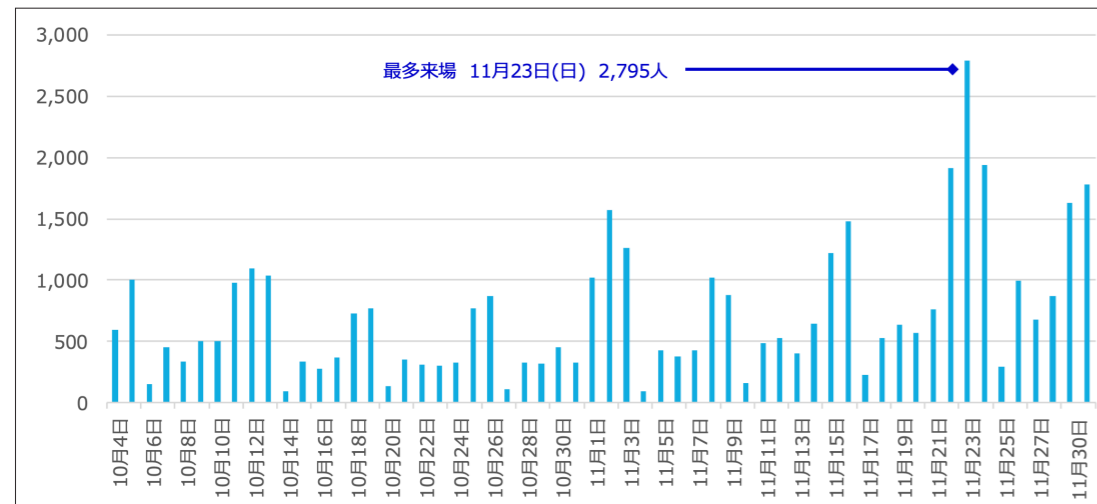
延べ来場者数 21万4,089人

有料 施設・イベント来場者数：計41,392人		無料 施設・イベント来場者数：172,697人	
会場	人数	会場	人数
神勝寺禅と庭のミュージアム	12,348人	ONOMICHI U2	14,971人
ふくやま美術館 ギャラリー	3,095人	LOG (無料エリア)	6,033人
尾道市立美術館	20,991人	キオスク 福山駅前	110,529人
LOG	1,823人	キオスク ONOMICHI U2 前	40,132人
LLOVE HOUSE ONOMICHI	1,433人	イベント (無料)	1,032人
まちなか文化交流館「Bank」	1,471人		
イベント (有料)	231人		

延べ来場者数 推移



有料 施設・イベント来場者数 推移



来場者アンケート

来場者の属性、評価、意見などを把握するため、神勝寺 禅と庭のミュージアム、尾道市立美術館の2か所で来場者へのアンケート調査を実施した。(回答者数 671人)

調査体制	主催：一般財団法人神原・ツネイシ文化財団
	アンケート調査実施：ひろぎんエリアデザイン株式会社
実施日時	2025年10月5日(日)9:00～16:00 2025年10月25日(土)・26日(日)9:00～16:00 2025年11月1日(土)・2日(日)9:00～16:00
実施場所	2025年10月5日(日)尾道市立美術館 2025年10月25日(土)・26日(日)神勝寺・尾道市立美術館 2025年11月1日(土)・2日(日)神勝寺・尾道市立美術館
調査対象	『ひろしま国際建築祭 2025』の来場者
調査方法	調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合はQRコードを読み取ってもらい、WEBアンケートを実施。
回収状況	有効回答数 671

特性

アンケート調査の結果から来場者には以下のような特性が見られた。

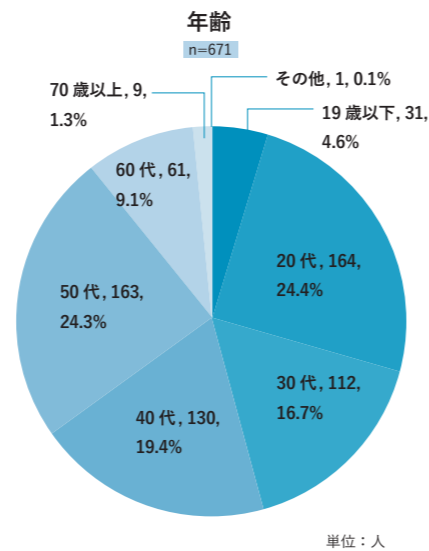
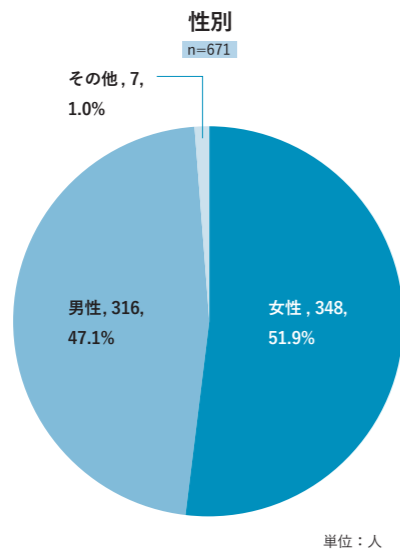
- 年齢層は20代が最も多く(24.4%)、次いで50代(24.3%)と続くが、30代(16.7%)、40代(19.4%)も多く、幅広い層に受け入れられている。
- 広島県以外からの来場者が半数以上(57.5%)となっている。都道府県別でみると東京が一番多く(11.3%)、次いで大阪府(6.3%)、愛知県(5.4%)、岡山県(5.1%)となっている。
- 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)からの来場者は全体の16.9%、関西圏(大阪・京都・兵庫)からの来場者は12.5%であった。首都圏・関西圏からの来場者の割合は29.4%と、全体の3分の1弱を占めている。
- 広島県外からの来場者の交通手段を見ると、自家用車が45.2%と一番多かった。次いで新幹線(32.8%)、飛行機(9.2%)となっている。
- 宿泊を伴う来場は、回答者全体の48.4%となっている。
- 他地域で開催されていた芸術祭への訪問有無について尋ねたところ、「瀬戸内国際芸術祭」への訪問が最も多く48.3%であった。
- 総合評価は「非常に満足」と回答したのは52.9%で半数を超えている。「満足」と回答した42.5%と合わせると、95.4%の方から高評価であった。

回答者の属性

● 性別、年齢

回答者の性別をみると、女性が51.9%、男性が47.1%であり、女性の方が4.8%多い結果となった。

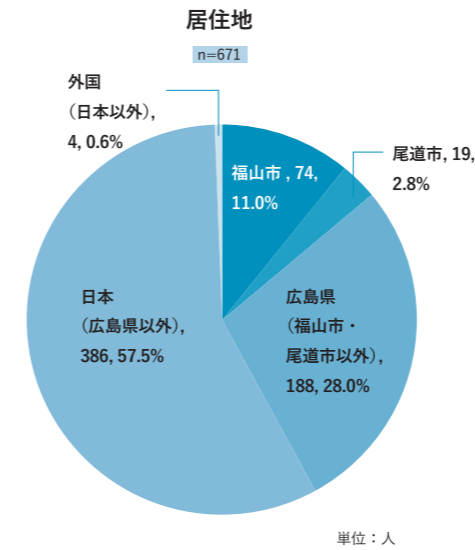
年齢については、20代が24.4%で最も多く、次いで50代24.3%となっている。30代は16.7%、40代は19.4%が訪れており、幅広い層に受け入れられていることが伺える。



● 居住地

居住地を尋ねたところ、福山市が11.0%、尾道市が2.8%、広島県(福山市・尾道市以外)は28.0%、

日本(広島県以外)が57.5%、外国(日本以外)が0.6%となっている。広島県以外の居住地(都道府県)は以下のとおり。

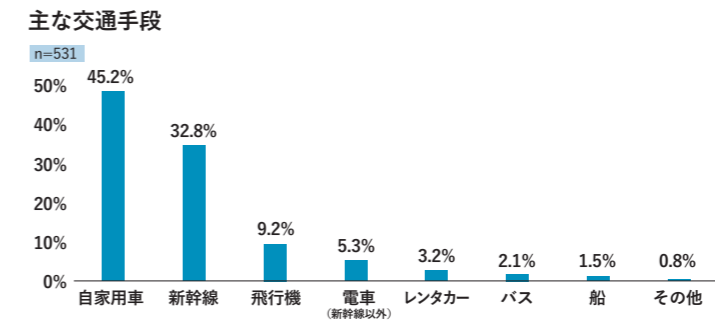


居住地	回答数	割合	居住地	回答数	割合
福山市	74	11.0%	三重県	0	0.0%
尾道市	19	2.8%	滋賀県	3	0.4%
広島県	188	28.0%	京都府	19	2.8%
北海道	1	0.1%	大阪府	42	6.3%
青森県	1	0.1%	兵庫県	23	3.4%
岩手県	0	0.0%	奈良県	7	1.0%
宮城県	3	0.4%	和歌山県	0	0.0%
山形県	0	0.0%	鳥取県	6	0.9%
秋田県	0	0.0%	島根県	8	1.2%
福島県	0	0.0%	岡山県	34	5.1%
茨城県	2	0.3%	山口県	6	0.9%
栃木県	0	0.0%	徳島県	4	0.6%
群馬県	0	0.0%	香川県	13	1.9%
埼玉県	9	1.3%	愛媛県	16	2.4%
千葉県	9	1.3%	高知県	5	0.7%
東京都	76	11.3%	福岡県	19	2.8%
神奈川県	20	3.0%	佐賀県	1	0.1%
新潟県	0	0.0%	長崎県	2	0.3%
富山県	0	0.0%	熊本県	1	0.1%
石川県	2	0.3%	大分県	3	0.4%
福井県	2	0.3%	宮崎県	0	0.0%
山梨県	2	0.3%	鹿児島県	1	0.1%
長野県	3	0.4%	沖縄県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%	外国	4	0.6%
静岡県	1	0.1%	無回答	6	0.9%
愛知県	36	5.4%	合計	671	100.0%

来場の際の行動状況

● 利用した主な交通手段

広島県外からの来場者に、来場の際に利用した主な交通手段を尋ねた。「自家用車」が45.2%で最も多く、次いで「新幹線」が32.8%、「飛行機」が9.2%となっている。

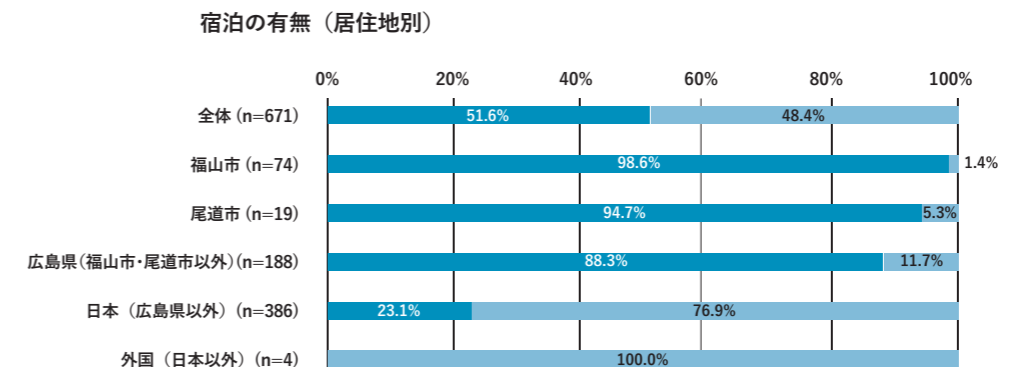


● 宿泊の有無

来場に伴う宿泊の有無について尋ねた。全体をみると51.6%が「日帰り」、48.4%が「宿泊」であった。

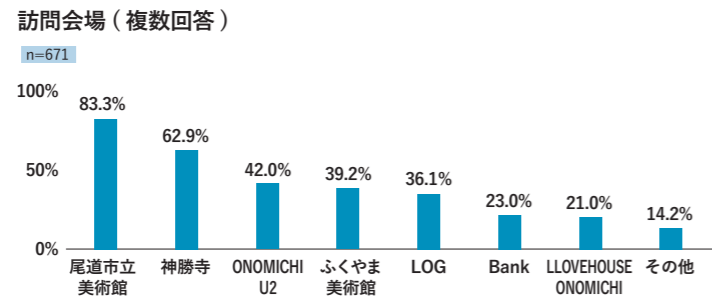
広島県(福山市・尾道市以外)に居住している方は、88%以上が日帰りであった。

日本(広島県以外)からの来場者をみると、「日帰り」が23.1%、「宿泊」が76.9%となっている。



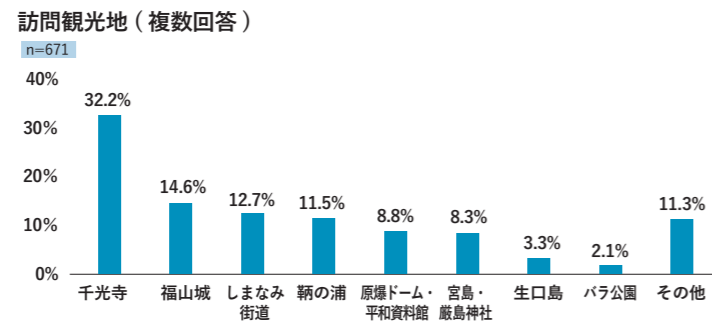
● 訪問会場

今回の来場におけるひろしま国際建築祭における訪問会場を尋ねたところ、「尾道市立美術館」が最も多く83.3%であり、次いで「神勝寺」が62.9%であった。そのほかの施設では、「ONOMICHI U2」が42.0%、「ふくやま美術館」が39.2%、「LOG」が36.1%であった。



● 訪問観光地

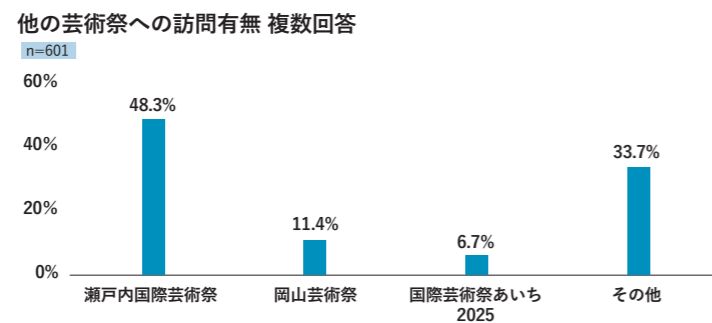
今回の来場における訪問観光地を尋ねたところ、「千光寺」が最も多く32.2%であり、次いで「福山城」が14.6%、「しまなみ海道」が12.7%、「鞆の浦」が11.5%であった。そのほかの観光地では、「原爆ドーム・平和資料館」「宮島・厳島神社」にも約8%程度の人を訪れている。



※全体の回答数から回答割合を算出しているため、無回答も含まれる。

● 他の芸術祭への訪問有無

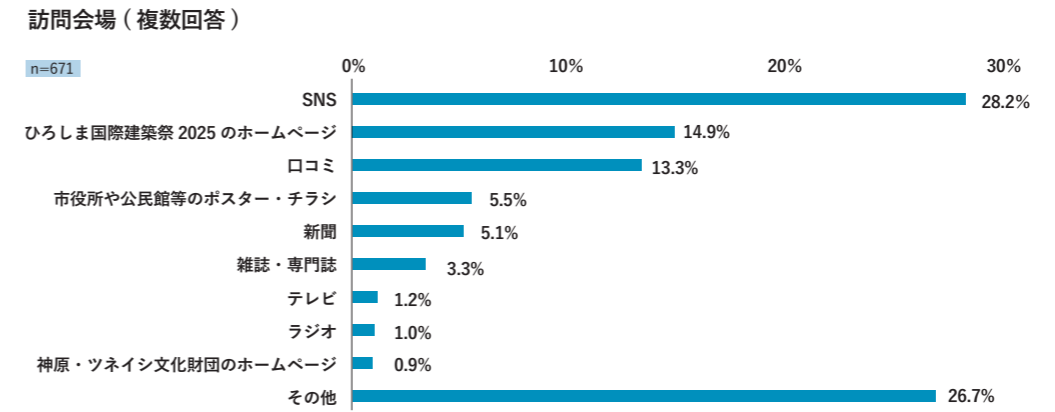
今回の来場の前後において、他地域で開催されていた芸術祭への訪問有無について尋ねたところ、「瀬戸内国際芸術祭」への訪問が最も多く48.3%であった。



ひろしま国際建築祭 2025 についての評価等

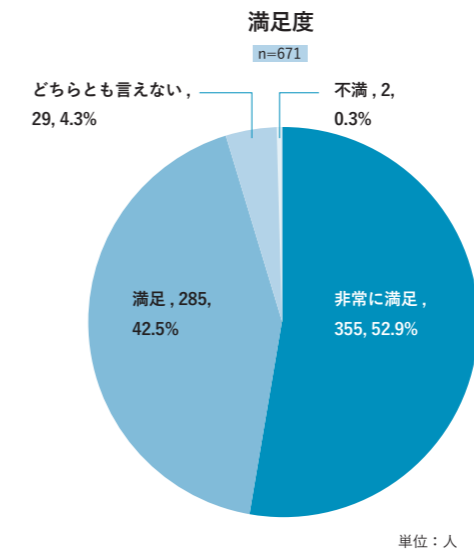
● どのようにして知ったのか（情報源）

ひろしま国際建築祭 2025 に来場するきっかけとなった情報源について尋ねた。「SNS」が28.2%と最も多く、次いで「ひろしま国際建築祭 2025 のホームページ」が14.9%、「口コミ」が13.3%となっている。



● 満足度

ひろしま国際建築祭 2025 の満足度について尋ねた。「非常に満足」と回答したのは52.9%で半数を超えている。「満足」と回答した42.5%と合わせると、95.4%の方から高評価であった。





IX. 経済波及効果

『ひろしま国際建築祭 2025』はミッションのひとつとして「地域の活性化」を挙げている。その一環として、初開催となった本建築祭の、開催地域に及ぼす経済波及効果についての測定を行った。

本建築祭の経済波及効果について調査・分析・推計することにより今回の事業を評価すると共に、今後地域が一体となった事業展開の検討等の基礎資料となることを目的としている。

推計結果

『ひろしま国際建築祭 2025』により創出された需要の総額は、全国で12億6,300万円、「広島県内」で9億8,800万円と推計された。

需要額12億6,300万円のうち「広島県内」で発生した需要は、神原・ツネイシ文化財団の資料やアンケート調査の結果などから、9億8,800万円と推計された。このうち1億4,900万円が県外に流出し、残る8億4,000万円が「直接効果」として、広島県内の生産活動に投下された。

「直接効果」を受注した県内の事業者が、売上原価の一部を別の県内事業者に発注し、それを受注した事業者がさらに別の県内事業者に発注することにより、取引が県内に波及していく。このように繰り返される受注の総額（直接効果を除く）である「間接1次効果」は3億2,300万円と推計された。

直接効果と間接1次効果の業務の従業者が賃金を得て広島県内で消費することによる「間接2次効果」は1億5,400万円と推計された。

この結果、直接効果、間接1次効果、間接2次効果を合計した「総合効果」は13億1,700万円となった。

経済波及効果

需要総額

全国	12億6,300万円
広島県内	9億8,800万円

経済波及効果の推計

広島県内（直接効果）	8億4,000万円
広島県内（間接1次効果）	3億2,300万円
広島県内（間接2次効果）	1億5,400万円
広島県内（総合効果）	合計13億1,700万円

（ひろぎんエアデザイン推計）

※ 直接効果・・・『ひろしま国際建築祭 2025』の事業費及び来場者による県内消費によって、県内の産業部門に直接に生産を誘発する効果。

※ 間接1次効果・・・原材料を他産業から購入することによって起こる生産誘発効果。

※ 間接2次効果・・・直接効果と間接1次効果によって誘発された生産から生み出された雇用者所得が新たな消費に向けられることにより、再び生産を誘発する効果。

※ 総合効果・・・直接効果、間接1次効果、間接2次効果を合計した経済波及効果。

X. 後援・助成・協賛等の支援

『ひろしま国際建築祭 2025』開催にあたっては、多くの個人・企業・団体の資金的なサポートや協力体制のもと開催された。その多大なる支援に対し、謝意を表すとともに報告する。

後援

『ひろしま国際建築祭 2025』は、文化庁をはじめ、開催地の自治体、観光関連団体、経済団体、メディアや、建築関連団体の協力により、開催された。

- 文化庁
- 広島県
- 福山市
- 尾道市
- 一般社団法人せとうち観光推進機構
- 一般社団法人広島県観光連盟（HIT）
- 広島商工会議所
- 福山商工会議所
- 尾道商工会議所
- 一般社団法人日本建築学会
- 一般社団法人日本建築協会
- 公益社団法人日本建築家協会
- 公益社団法人日本建築士会連合会
- 一般社団法人日本建築士事務所協会連合会
- 一般社団法人日本建築設計学会
- 中国新聞社

助成

『ひろしま国際建築祭 2025』の開催にあたっては、以下の公益財団法人より、助成を受けた。

公益財団法人大林財団



協賛

『ひろしま国際建築祭 2025』は、開催地を本拠地とする企業を中心に、多くの企業からの資金的な支援を受け開催された。

- 常石グループ
- 常石造船
- ツネイシカムテックス
- 浅沼組
- モルテン
- ウッドワン
- ひろぎんホールディングス
- ちゅうぎんフィナンシャルグループ
- 三井住友銀行
- 中国新聞社
- エフピコ
- マリモ
- 両備ホールディングス
- 日東製網
- イシカワホールディングス
- 南方ホールディングス
- 尾道造船
- モトヤユニテッド
- 安田工業
- 加計学園
- アトム
- ベッセルグループ
- 大和建設
- 光和物産
- ヒロマツホールディングス
- イズミ
- グローブス
- テラル
- 安保管店
- 山丸汽船
- PARIGOT
- 堀田組
- ホーコス
- 三井不動産

- 浅沼組
Asanuma Corporation
- molten
Strong with Passion
- WOOD ONE
- ひろぎんホールディングス
- ちゅうぎんフィナンシャルグループ
- SMBC
- 中国新聞社
- エフピコ
- あらししい、あひろまとも、marimo
- 両備グループ
- 日東製網
NITTO SEIMO CO., LTD.
- Ishikawa holdings Ltd.
- MGHD
株式会社 南方ホールディングス
- 尾道造船株式会社
- MOT(YA) UNITED
- YASDA
ワクワク、岡山大学、岡山理科大学
OKAYAMA UNIVERSITY OF SCIENCE
- ベッセルグループ
VESSEL HOTELS
- 大和建設株式会社
- 光和物産
- ヒロマツホールディングス
HIROMAZ HOLDINGS
- youme
youme
- GLOVES
- TERAL
- 安保管店
- 山丸汽船株式会社
YAMAMARU KISEN CO., LTD.
- PARIGOT
株式会社 堀田組
- ホーコス株式会社
- 三井不動産
MITSUBI FUDOSAN

後援・助成団体名、協賛企業名の掲出

福山・尾道市内8つの展示会場に設置されたパネルにて、後援団体名、助成団体名、協賛企業名を掲出した。

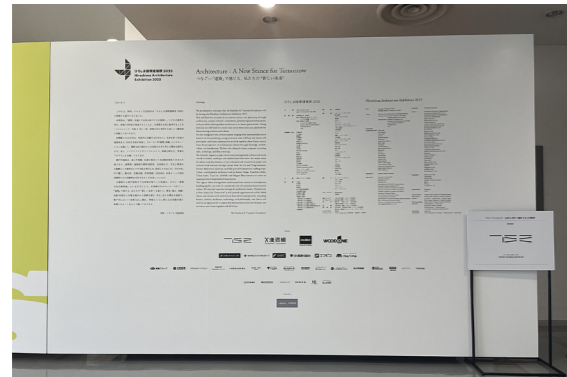
神勝寺 禅と庭のミュージアム（総門前）



神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院下・特設会場）



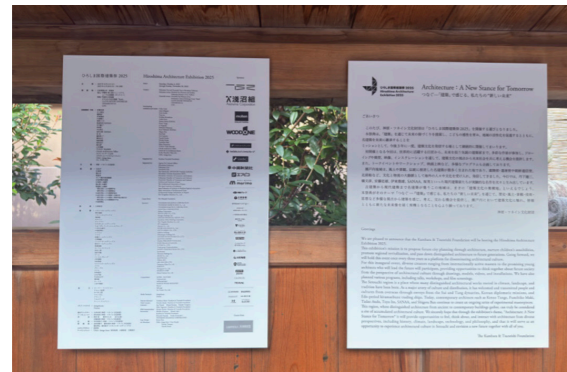
尾道市立美術館



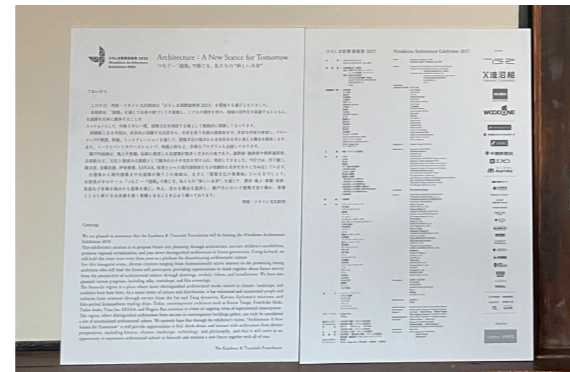
ふくやま美術館 ギャラリー



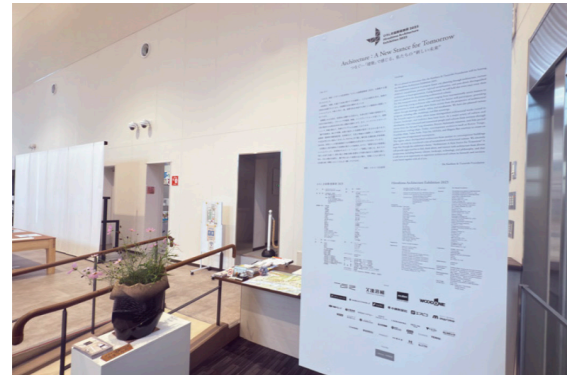
LOG



LLOVE HOUSE ONOMICHI



まちなか文化交流館「Bank」



ONOMICHI U2



『ひろしま国際建築祭 2025』公式ホームページにて、後援団体名、助成団体名+ロゴマーク、協賛企業名+ロゴマークを掲載した。



ハンドアウト
(入場者に無料配布した地図付き展示ガイド)に後援団体名、助成団体名+ロゴマーク、協賛企業名+ロゴマークを掲載した。

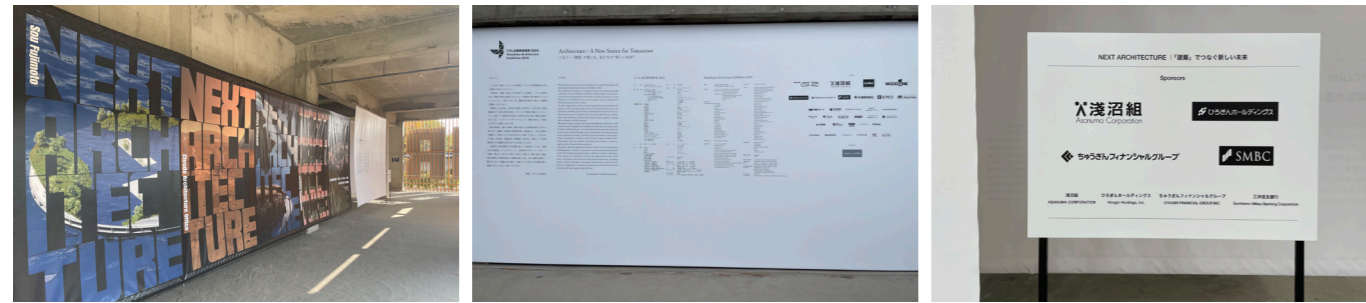


特定の展示に対する協賛については、展示会場入り口にサインを設置し、企業名+ロゴマークを掲出した。

NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなく新しい未来

神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院下・特設会場）

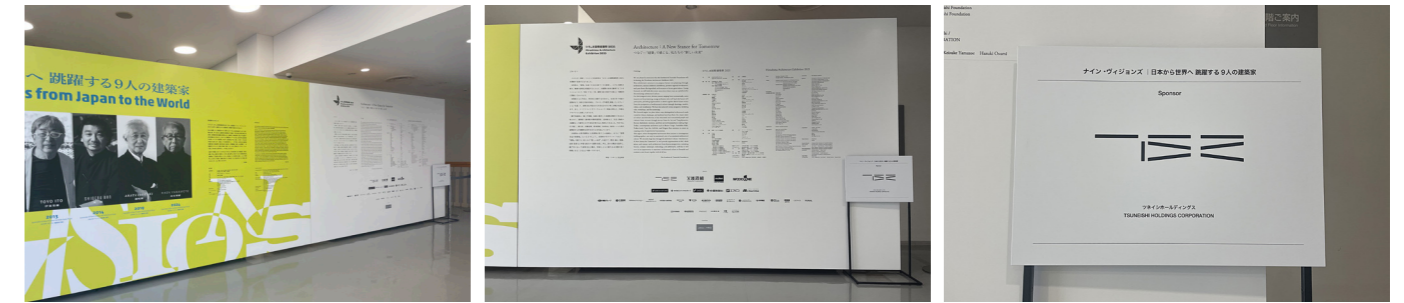
協賛：浅沼組、ひろぎんホールディングス、ちゅうぎんフィナンシャルグループ、三井住友銀行



ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ 跳躍する9人の建築家

会場：尾道市立美術館

協賛：常石グループ



神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト 「成城の家」の写し— 丹下健三自邸の再現・予告展

神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院・明々軒）

協賛：中国新聞社、エフピコ



Architecture Voice from LOG | 「建築の声」を聞く

会場：LOG

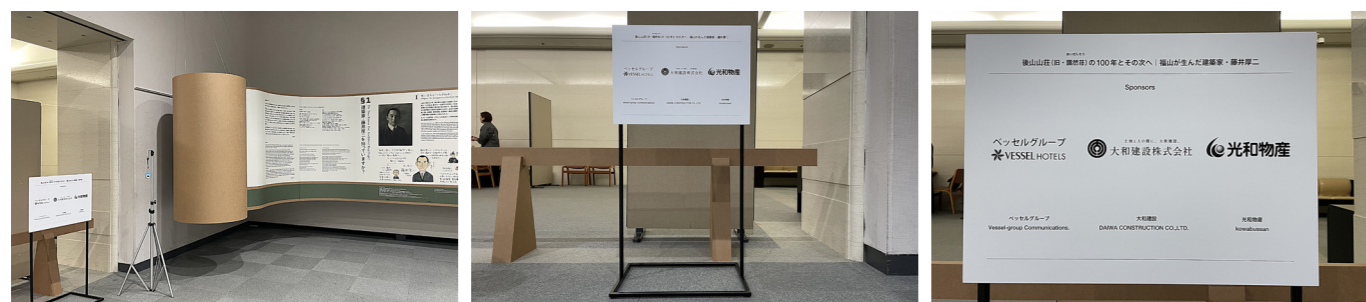
協賛：ヒロマツホールディングス、イズミ



後山山荘（旧・藹然荘）の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二

ふくやま美術館 ギャラリー

協賛：光和物産、ベッセルグループ、大和建設



OPEN LLOVE HOUSE | 尾道「半建築」展

会場：LLOVE HOUSE ONOMICHI

協賛：安保商店、山丸汽船、PARIGOT、堀田組



子供向け・親子参加のワークショップへの協賛には、ワークショップ会場に複数のサインを設置し、企業名+ロゴマークを掲出した。

椅子づくりやノコギリ、かな削りを体験できる大工ワークショップ

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム

協賛：テラル



庭園でまなぶ、親子の循環ワークショップ「神勝寺の庭を舞台にしたコンポストづくり体験」

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム

協賛：ホーコス



『ひろしま国際建築祭 2025』の開幕を記念して4組の建築家を招聘し行われたトークイベントでは、協賛社名をイベントのタイトル名に付け開催した。

ひろしまから世界へ——建築祭オープニング・プレミアトーク presented by marimo



鑑賞パスポートを購入せずとも無料で「建築」と触れ合うことができる「移動型キオスクー小さな建築プロジェクト」で誕生した3つのキオスクは、それぞれ協賛企業のサポートでつくられ、協賛社名やロゴマークを掲出した。

移動型キオスクー小さな建築プロジェクト 01： 「つぼや」堀部安嗣 × ウッドワン

会場：神勝寺 禅と庭のミュージアム（無明院・無明の庭）

協賛：ウッドワン



移動型キオスクー小さな建築プロジェクト 02： 「風景が通り抜けるキオスク (Catch)」 中山英之 × モルテン

会場：ONOMICHI U2 前「オリーブ広場」

協賛：モルテン



移動型キオスクー小さな建築プロジェクト 03： 「雲がおろる」 石上純也 × 常石造船・ツネイシカムテックス

会場：JR 福山駅南口

協賛：常石造船、ツネイシカムテックス



特別協賛・特別協力・協力

『ひろしま国際建築祭 2025』の開催にあたり、以下の個人・企業・団体の特別協賛、特別協力、協力をいただいた。

神原・ツネイシ文化財団 建築文化再興プロジェクト「成城の家」の写し——丹下健三自邸の再現・予告展

特別協力：内田道子、溝口至亮（GALLERY-SIGN）、TANGE 建築都市設計、おだわら名工舎

後山山荘（旧・藹然荘）の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二

特別協力：谷藤史彦、藤井英博、松隈章、後山山荘倶楽部、竹中工務店、聴竹居倶楽部

ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ跳躍する9人の建築家

特別協力：千葉工業大学建築学科 今村創平研究室、京都大学大学院工学研究科建築学専攻 建築史学 ダニエル研究室、京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab、マルニ木工、アイティーエル

うつすからだと、うつしの建築

協力：尾道市

特別協力：富士フィルムイメージングシステムズ、タティシ広美社

謝辞

展示「ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ跳躍する9人の建築家」では会場に以下の謝辞を掲出した。

TANGE 建築都市設計、槇総合計画事務所、磯崎新アトリエ、安藤忠雄建築研究所、KAZUYO SEJIMA+RYUE NISHIZAWA SANAA、鈴木久雄、伊東豊雄建築設計事務所、坂茂建築設計、山本理顕設計工場

ハイアット財団、日本デザインセンター、尾道市立美術館、東京都現代美術館、高知県立美術館、MISA SHIN GALLERY

フルステージ、デコラム、ブランコ、タカムラ産業、スーパー・ファクトリー、アートトランジット、アマナ、ピカソ画房

内田道子、仲俊治、玉田誠、末光弘和、熊井順一、キョ・グリフィス、新苗美緒、丹生有紀、イム・ヘジ、松崎志保、小宮山光、杉本直樹、グレン・スミーツ、クォン・イェソ、水田有子、天野圭悟、山中武、宮内智久、下田泰也、半村幹夫、桑原奈穂子、岡本彩加

京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab / 津田和俊、井上智博、孫詩禹、石田航平、ミン・キョンソク、浅井 睦、市村ともか、小川芹奈、、小野田美羽、木戸菜々佳、キョクサル エブラヌル、佐々木和、杉山鼓太郎、鈴木綾乃、高橋嘉一、筒井洸太郎、中山華琳、星野空、松本健太郎、三瀬みゆき、森湖音、芳澤海飛、吉富空

京都大学大学院工学研究科建築学専攻 建築史学 ダニエル研究室 / トーマス・ダニエル、北岡智也、越智遥、中村凌汰、白井雄也、弓削修二

千葉工業大学建築学科 今村創平研究室 / 今村創平、坂内俊太、猪股楓、川上拳汰、沓掛涼太、副島碧、平瀬美咲、飯塚真尋、石井美沙、奥富樹、佐藤祐莉彩、藤本千廣、徳富阜、浅見明優美、磯貝凧沙、乾美優、大池颯馬、荻野大河、金子雅史、櫻井朋哉、菅原詩那、鈴木真優、広瀬真妃奈、山岡智哉

展示「後山山荘（旧・藹然荘）の100年とその次へ | 福山が生んだ建築家・藤井厚二」では会場に以下の謝辞を掲出した。

竹中工務店、聴竹居倶楽部、後山山荘倶楽部、UID、タカムラ産業、ブランコ、藤井英博、松隈 章、谷藤史彦、宮沢 洋（BUNGA NET）、三谷道昭（大和建設）、柏原一郎（大和建設）、藤井孝浩（藤井製瓦）、末宗健男（松尾建設）、渡部英一郎（渡部組）、宮宗紀裕（つるや表具店）、西山雄一（西山木工）、香雪美術館、旧嵯峨御所大本山大覚寺、Relevant Object、八木邸倶楽部、ACG Villa Kyoto、早川喜子、木下壽子、小西章子、小西伸一、八木圭子、吉原もも子、八木研、八木亮、小川雅人

XI. 主催団体

『ひろしま国際建築祭 2025』を主催した一般財団法人神原・ツネイシ文化財団については、次の通りである。

概要

名称：一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

所在地：広島県福山市沼隈町常石 1083

設立日：2024 年 1 月 30 日

代表理事：神原勝成

目的

1. 建築文化を軸にした展覧会、講演会、情報発信等の事業
2. 建築文化を軸にした地域活性化および雇用促進のための事業
3. 地域の建築文化、伝統文化、伝統産業およびまちなみの保全に関する事業
4. 前各号に附帯する一切の業務

役員

代表理事 理事長 神原勝成

代表理事 副理事長 神原武子

理事 石川康晴
内田道子
大原あかね
白井良邦
福武英明
溝口至亮

監事 足立仁

評議員 青井茂
黒川周子
小林宏明
松田哲也
松田敏之
神原文雄
浪山敬行

公式ホームページ <https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/>





『ひろしま国際建築祭 2025』開催報告書

© 一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団
2026年5月発行